

衆生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2014 年 11 月 1 日 発行
(通巻 463 号)

現代座レポート 60

- ・「武蔵野の歌が聞こえる」全回満員御礼 (1)
- ・新しい街おこしの広がりをも・協同してみんなが豊かに (2)
- ・芝居に出たぞ ・平右衛門を演じて (3)
- ・「武蔵野の歌が聞こえる」舞台写真とものがたり (4) (5)
- ・NPO 現代座を支える人々 第 17 回 みきさちこさん (6)
- ・「約束の水」 ・活動日誌 (7)
- ・お知らせ (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX 042-381-6987



『武蔵野の歌が聞こえる』 全回満員御礼

カーテン・コール 全景が収まりきらないため、客席部分と舞台部分の写真を合わせました。

心のきずなをつくる劇場

市民プロジェクトが4年がかりで取り組んだ公演でした。8回の上演予定が急遽9回の上演となり、全回満席となりました。ありがとうございました。

公演は現代座とシニアSOHO小金井が協力し、制作から上演まで、すべて市民の協同によって実現しました。

演劇など観たことがないという人が半数近くあり、「現代座の地下にこんな劇場があるとは……」と驚かれました。現代座が全国公演をしていた時の大稽古場ですから、中規模ホールの舞台設備を備えています。

客席は80〜90席なので、すべてが金銭で成り立つ現代では商業的活用は不可能ですが、肉声による心の共鳴を実現するには大変貴重な空間です。「心の共鳴」は現代が失った地域コミュニティ文化の原点でもあります。

755名の入場者の内347名の方が感想を寄せてくださいました。難しい郷土の歴史を、舞台と客席が一体になって体験したという感想が多かったのはありがたいことでした。(木村快)

入場者数と感想記入者数

| | 入場者 | 感想記入者 |
|-------|------|-------|
| 9月11日 | 昼 67 | 22 |
| | 夜 86 | 44 |
| 9月12日 | 昼 85 | 42 |
| | 夜 87 | 59 |
| 9月13日 | 昼 83 | 33 |
| | 夜 79 | 34 |
| 9月14日 | 昼 90 | 39 |
| | 夜 87 | 43 |
| 9月15日 | 昼 91 | 31 |
| 計 | 755 | 347 |

スタッフ

脚本・演出 木村 快

演出助手 ニシカワダイ

作曲 福沢達郎

舞台美術 寺崎昌広

協力 狩野和太郎

照明プラン 渋谷博史

照明 高橋康孝

衣装製作 柳澤友季子

演出部 服部次郎

ビデオ撮影 桑原重美・森岡甫宏

写真撮影 山本幸則・加賀谷公一

宣伝美術 東 志野香

企画制作 木下美智子

出演者

今村純二・みきさちこ・黒澤義之

藤田尚希・中村保好・八木浩司

木の下敬志・東志野香・長谷川葉月

矢川千尋・松下菊乃(ピアノ演奏)

【市民参加者】塚田善久・織壁哲夫

川崎平右衛門プロジェクト

大橋元明・桐生悠一・木場征夫

塚田善久・織壁哲夫・環 笑子

田宮和夫・木野主計(古文書解説)

上演サポーター

五十嵐京子・井爪輝明・今井啓一郎

小川和男・梶間陽一・神田正美

孤島法夫・齊藤 浩・斎藤康夫

嵯峨山康夫・澤田 仁・篠原 照

新谷友子・高橋金一・葛谷栄一

葛谷政子・能勢富美子・福島若葉

渡邊佳子

新しい街おこしの広がり

大橋元明



NPO法人
シニアSOHO小金井
相談役（前代表理事）

この度の演劇上演は多くの方々が増した協働とご支援の賜です。現代座、シニアSOHO小金井、川崎平右衛門プロジェクト、上演サポーター、およびご来場の皆様に感謝申し上げます。

江戸時代中期、宝永大地震、富士山大噴火など相次ぐ自然災害と放漫財政によって破綻寸前だった幕藩体制の立て直しに將軍徳川吉宗は享保の改革を断行します。その重要施策の一つが新田開発でした。大岡越前守忠相は御栗林の縁で知った川崎平右衛門に不毛の台地だった武蔵野の新田開発に当たらせました。平右衛門は現在の小金井市と埼玉県鶴ヶ島市に陣屋を構え、独創的手法と農民との共同により新田開発を成功させました。その後、美濃国の治水に成功し、石見銀山を再興しますが、小金井時代の経験が生かされています。玉川上水の堤に植えた桜は名勝小金井桜として今に続いています。

しかし、小金井の桜と栗を知っていても創始者について知らない人が多く、平右衛門が活躍したご当地・小金井市での無関心ぶりを残念に思い、啓蒙活動をしていました。平右衛門の活躍は大岡忠相との出会いから始まり、平右衛門の知恵と多くの人々の支え合いが事業を成功に導きました。平右衛門を知ってもらうには人々の生き様を描く演劇が最適と思っております。

二〇一〇年三月、NPO現代座の木下美智子さんに平右衛門の演劇作りを打診し、四月に「川崎平右衛門プロジェクト」がスタートしました。平右衛門と郷土史の学習や史蹟の現地見聞などを積み重ねた成果が現代座によって演劇として結実し、二〇一一年の第三小学校六〇周年記念・朗読劇の上演、そしてこの度の演劇上演の運びとなりました。木村快さんのシナリオ作りの洞察力と情熱、皆様の演劇に対する前向きな取り組みに敬服を表します。

現在の東日本大震災と原発事故、財政難は当時の状況に似ており、平右衛門に学ぶところがあります。今回の上演が平右衛門への関心の広がり、さらに平右衛門を活かした地域興しに発展することを願っております。

*公演当日プログラムの「挨拶」より。

協同してみんなが豊かになる

西東京市 蔦谷栄一



長く農協関係の仕事をして、農業評論家としても知られる。サポーターの一員として奮闘された。

「武蔵野の歌が聞こえる」では、登場する役者たちの個性的で納得性の高い演技、そしてシンプルであるだけに美しくかつ力強く響く歌声・合唱に感嘆させられたが、同時に強力なメッセージを発している脚本の持つパワーが印象的であった。

本劇は川崎平右衛門が農民の立場で新田復興を図り、農民自身の助け合い精神を引き出すことによって、協同の村をつくりあげていくストーリーを描いているが、「今回の作品制作の意図は川崎平右衛門の伝記ではなく、不毛の大地と言われた武蔵野台に、なぜ新しい村々が誕生したのかを探ること」にあるとしている。その心は、政策に当たる側は農民の立場を十分に理解していることが必要であり、このためには農民の目線をしつかりと獲得していること。そして農民自らが内発的に取り組んでいくことが肝心であり、一人一人では小さな力しかない農民が自ら内発的に取り組んでいくには相互扶助、協同していくことが欠かせない、

というところにある。震災から復興し「みんなが豊かになる」ために、特に協同性が大事だということは、実はまっとうに生きている多くの人の心の中にある思いであるからこそ深く胸打つものがあつたように思う。

今、安倍政権がすすめるアベノミクスとTPPへの執着は、経済成長と「選択と集中」による格差拡大を前提とする真逆なものであつて、自分だけは豊かになつても「みんなが豊かになる」ということはない。そこには「地方創生」という言葉遊びがあるだけで現場目線は皆無であり、農協批判とその改革意見の中身は協同組織の壊滅を狙っているとしか考えられない。それだけに震災からの復興は難しく日本の再生はかなわないことになる。しかし本劇は地域という相対的に小さな、限られた舞台であれば、皆が当事者となつて地域とかわりを持ち、しかるべきリーダーを確保し協同性を発揮していくことをつうじて、希望を手繰り寄せていくことは可能であることを示唆しているように受けとめた。

なお、本劇は基本80席という限られた空間のなかでの肉声によることにこだわったものであつたが、それであるがゆえにメッセージが直截に伝わり説得力を持つことを実感するという貴重な経験を得た。あらためて空間というものが劇に生命を吹き込むにあたつてきわめて大きな要素であることを実感し、正直驚かされた。

芝居に出たぞ

織壁(おりかべ) 哲夫



市民も出演すべきだということで、塚田善久さんとわたし協力出演することになった。二時間ほどのうち十分にもみたくない出番で、合唱と少しのフリだけだった。

最初の出番は村名主からの呼びかけに応え、「武蔵野大地はわが大地、力をつくし掘り返せ…」と合唱しながら鎌を振るうフリの踊りをした。

つぎの出番は「急げや急げ、夜が明ける。小金井橋はもうすぐだ…」と飢饉救援にかけつける。小金井橋は私の家のすぐそばの橋だ、と親近感。助け合いに立ち上がる場面はジーンときたというアンケートの声も多かった。私もぐつと涙がこみ上げて、歌った。

フィナーレ「力合わせる里となる。桜花咲く里となる」とのどに力を入れ、空を見つめる姿勢で合唱した。

最初、「立っているだけでいい」と言われ、切符を売るための「人寄せパンド」と自認して出たが、「役者は三日やれば……」とまでではいかなかったが、面白かった。

役者は、稽古前には柔軟体操が不可欠。芝居の動作というのは、とまず

ば筋肉や骨を痛めやすいそうだ。これにはまいった、子供のころから体が硬いのは自慢だ。

次に発声練習、腹式呼吸を求められても、太鼓腹にはきつい。大声出したつもりでも声は通らない。「あー、あー」と音階を追って声を出す。こんなことは生まれてこの方やってないよ。それでも少しずつ声が出てくる。劇を見た人から「声が聞こえましたよ」と言われて恥ずかしいやらうれしいやら。

出番にはタイミングがある。舞台上にいる役者のセリフに合わせて出ていかないといけない。本番直前までトチツテいた。「皆の衆…」と呼びかける場面に皆の衆が足りない、と思つたら自分の出番だ。幕の袖にいるスタッフから肩を叩かれてあわてて出ていた。

立ち位置は問題だ。前や後ろの人にカブってはいけない。舞台に出るだけで精いっぱいだ。他人のことはかまっていられなかったが、次第に決められた場所にスツと立てるようになった。

「おりかべさん！目が泳いでいますよ。泳いでいると自信なさそうに見えますよ」と、歌っているときは上を向き、一点を見つめるのだ。自信をもって！

今回の上演は好評でアンケートでも評価する声ばかりだった。なにより「役者らしくない変な奴が、見苦しい」という回答がなかったので安心した。

平右衛門を演じて

黒澤義之



現代劇のキャリアは長い。江戸時代の人間となると、簡単ではない。若い俳優をリードしながら悪戦苦闘。

この三月の末に初顔合わせがあったから、七月に入って週末の稽古がはじまり、本番を迎えるまでに四十数回の稽古を数えた。出演者全員がそれぞれの仕事をかかえながらこの作品に参加するという困難をかかえながらの日々だった。当然、出演者全員が顔を合わせた稽古が出来る日はきわめて少なく、私個人も合唱構成劇という全く経験のないスタイルにとまどい、これで本当に幕があくのか、というのが正直な気持ちだった。

台本は上演稿まで実に十二稿に及び、その後も細かな改稿をつづけるなど、作、演出の快さんの苦労も大変なものだったろう。そして私には、「平右衛門プロジェクト」として、現代座とシニアSOHO小金井の皆さんとの協同作業という、今までに無かった特色をもった作品の主人公を

演ずるといふプレッシャーがかかった。

平右衛門という人物の具体像をどうつくるか。様々な実績があるこの人物は、何に興味をもち、何が好きで何が嫌いだったのか。その具体的な人物像は、やはり彼の事績からしか見つけ出せなかった。仁、義、礼、智、信、を生き方の信条としたであろう人物。常に弱者の立場に立ちつづけ、そこから様々な実績を積み重ねた人物。こうしたヒントから導き出したのが、今公演の私なりの平右衛門像だ。

気持ちはあせれど、中々入らないセリフ、歌詞、メロディ。白状するが、全九公演中、まともなセリフの言えたステージは一ステージもなかった。これは観客の皆さんにおわびしなければならぬが、明らかにトチつたとわかるシーンでも観客の皆さんはヒクことなく見続けてくださった。これは本当にありがたかった。そして助けられた。

今回のプロジェクトに参加できて貴重な経験をさせてもらったこと、これからに生かしていきたいと思う。

◆詳細な内容、舞台写真、上演の動画はシニアSOHO小金井のホームページで視聴できます。

シニアSOHO小金井「平右衛門プロジェクト」ホームページ <http://heimon.org/>

合唱構成劇

武蔵野の歌が聞こえる

ものがたり



富士山南東部に残る宝永噴火口、現・宝永山。



この世の末か、富士のお山が火を噴いた。



「時は宝永4年」と語りが始まる。

② 混乱する幕府
 宝永大地震の後わずか十年の間に第五代將軍徳川綱吉、第六代將軍徳川家宣、第七代將軍徳川家継と相次いで亡くな

① 富士が燃える
 【合唱】富士が燃える
 十八世紀のはじめ、日本列島は元禄大地震、宝永大地震と相次ぐ大地震と津波に襲われます。特に宝永大地震では富士山の噴火が十六日間も続き、関東一帯の米作に致命的な打撃を与えます。

第一幕 宝永の大地震と享保の改革

三百年前の江戸時代、日本列島にいたい何が起こったのでしょうか。耳を澄ませてみましょう。かすかに武蔵野の歌が聞こえてきます。

必要に応じて、ややこしい江戸時代の用語を楽しく説明する三人娘。



相は、民間人から意見を聞き集める。



【合唱】新しい村をつくれ
 武蔵野に八十以上の新しい村ができるというので、それまで自分の畑を持ってなかった農家の二男・三男が関東一円から集まってきました。

③ 八代將軍吉宗による享保の改革
 吉宗が將軍に就任したとき、幕府は四〇万両に及ぶ負債を抱え、財政は崩壊寸前でした。世襲の役人では改革の実行は難しく、吉宗は大岡越前守忠相を奉行に抜擢し、「享保の改革」に取り組みます。大岡忠相は民間から専門家を集め、不毛の大地と言われた武蔵野台に大新田の開発を計画します。江戸時代の経済は「石高制（こくだかせい）」と言って領地からの年貢を基本にしていたため、まずは畑の面積を拡大するしかなかったからです。

幕府は大混乱に陥ります。
 ④ 困難な新田開発
 しかし、新田開発は思うように進みません。武蔵野は火山灰が堆積して出来た土地で、保水が難しく、農地を改良するのに長い時間がかかります。その上、当時は寒冷期であったため天候不順がつづき、享保の大飢饉救済のため幕府の財政は再び危機に追い込まれます。

さあ、村の衆、武蔵野に新しい村が出来るぞ！



お慈悲を、新田開発は進まず、崩壊の危機に追い込まれる農民。



⑤ 崩壊する武蔵野新田
 開発を始めて十六年目の元文三年、武蔵野新田は完全に崩壊状態でした。大岡忠相は最後の手段として、武蔵野の名主・平右衛門に新田百姓の救済を要請します。
 平右衛門は救済のために、自分の村に備蓄していた食料を小金井橋へ運び、飢えた百姓たちの救済に当た

ります。

【合唱】 小金井橋へ急げ

第二幕 協同の村をつくれ

⑥ 新田は回復できるか

大岡忠相は改めて平右衛門に代官の参謀役である新田世話役を要請します。

平右衛門は全農家を戸別に訪問して実情を調べ、尋常の手段では回復不可能と判断します。しかし、幕府には百姓救済の資金はありません。

幕府の救済を待つだけでは自滅しかない。なんとしても百姓自身が生きる意欲を取り戻す方法を考えなければなりません。

平右衛門は大岡に、役人による支配型の営農政策に見切りをつけ、百姓自身による協同方式を提案します。

⑦ 協同の村へ

暴れ川と呼ばれる多摩川河畔で育った平右衛門は、水害対策や復興のための村民による協同の仕組みについては熟知していました。

平右衛門は子供や老人の救済を優先し、老人や赤ん坊も一緒に生きられる村づくりをすすめます。

平右衛門は治水工事の専門家でもありましたから、幕府が準備する公共施設の建設を商人に頼まず、百姓自身で建設、その日当で当面の食料を確保します。同時に村民は各地から集まった新田村なので、協同の仕事を通して新しい心のコミュニティづくりをすすめます。

【合唱】 協同のよろこび

⑧ 百姓組合を作る

平右衛門は肥料を買う金もない現実を

克服するため、幕府から資金を借り、六年間で返済する営農方針を立てます。

八十二か村をまとめて百姓に組合をつくらせ、農民同士の話し合いで開拓をすすめて、開拓した土地は開拓者に無償で分譲します。

作物は江戸で需要の高い葉草などの生産を奨励し、肥料は農閑期の底値の時期を見計らって大量購入し、自由に貸し付けて収穫物で返済させることにします。

こうして、現代の協同組合と同じ考え方を普及させ、農民の生産意欲を高めます。さらに、かつて離村した農民が戻ってくれば、三両の立ち帰り料を支給したため、離農者たちも戻ってきて、耕作放棄地は姿を消してゆきました。

人口も増え、新田面積も倍増します。さらに飢饉に備えて毎年収穫の一分を協同で備蓄し、備蓄量を超えると江戸で販

売し、その金は村の福祉にあてました。

武蔵野台は十年の歳月をかけて豊かな畑作地帯へと姿を変え、新田開発を見事完成させます。

最後に、平右衛門は新田農民の憩いの場として、玉川土手に桜の苗を植えさせました。これは後に「小金井桜」と呼ばれ、江戸近郊の名所となりました。

⑨ 別れ

【合唱】 さくら咲く村

新田開発を成功させた平右衛門は、幕府の要請で水害に苦しむ美濃の国へと旅立つことになりました。

玉川土手に桜が咲きはじめたころでした。



平右衛門一党は新田農民救済のために小金井橋へ向かう。



身にまとう衣類もない悲惨な現状、まず人間らしさを取り戻さなければならない。



男も女も子供も老人も、力を合わせて井戸を掘れ。水が出たぞ！



百姓の組合で話し合い、荒れた武蔵野を緑の大地へ変えるのじゃ。



平右衛門は桜咲く武蔵野を去り、水害救済のため美濃の国へ向かう。

NPO現代座を支える人々

第十七回 みきさちこさん

記 武本英之



みきさちこ

NHKの養成所に学ぶ。卒業後、仲間と劇団三十人会を結成。当時はテレビが生放送だったため、舞台俳優と同じ訓練を必要とし、演劇仲間との交流も増え、舞台に出演するようになった。

江戸時代へのタイムスリップ

上演五日間、九回とも満員御礼の札止めとなった合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」に登場した役者さん達は全員、きらきらと輝いて見えた。演技が上手い下手なんてどうでもよく、とにかく思いを伝えたい、伝えなければならぬといった使命感のようなものを観ている人間にひりひりと感じさせた。小生も歳のせいか最近涙もろくなり、この度は、訳も分からず感動の嵐に襲われて何度も目頭が潤んでしまった。

この芝居の全篇を独特の節回しで語りつないでいるのが弁士役をお務めになった、みきさちこさんである。三百年前の江戸時代、日本列島では一体何が起こったのでしょうか——と始まる「語り」と「問いかけ」。映画の歴史に詳しい人なら、ここで徳川夢声といった活弁士を思い浮かべることだろう。「武蔵野の歌が聞こえる」の弁士は女性である。朗々とした格調ある声

が現代座大ホールの観客の耳目を引きつけ、いつしか三百年前の江戸時代にタイムスリップする。

肉声で芝居のできる役者

堂々たる弁士役を演じきった、みきさんだが、実は上演期間中、最悪の体調だったというから、驚きだ。何と毎日、点滴を打って舞台上上がっていたそうだ。「涼しくなったと思ったら、急に暑くなったり、温度差が激しい時があったでしょ。風邪にやられました。痰がつかえて声が出なくて」。上演三日目の一番きつかったという回を小生は観たが、全然気づきませんでした。ほかの観客の方々も、事情を話すと一様に吃驚仰天。脱帽です。

「弁士役をやるに当たって、(作者兼演出家の)木村快さんからは、劇中の要所所で解説を、私と三人の女性トリオがやりましたが、三人は現代風に、私は時代劇風にやって、とだけ指示がありました」という。そんなことが出来るだろうかと不安だったけれど、若い頃、発声の訓練のため和泉流の狂言を学んだことがあり、それが役に立ったのかもしれないとのこと。

快さんは「みきさんは、よく頑張ったと思う。今は、肉声で語れる役者がいなくなりました。彼女は数少ない役者の一人です」と絶賛する。みきさんと快さんは同年代のお生まれである。いちいち背景を説明しなくても、お互いが何を言おうとしているのか、あうんの呼吸で分かるらしい。

みきさんの現代座での上演歴を振り返ると、かつての大工場地帯であった川崎の街を描いた「ターミナル」、青ヶ島をモデルにした「遙かなる島」の朗読役、

二〇一二年から快さんの劇場講座の一環でスタートした「語りの会」で、ハンセン病療養所に生きる一人の女性の独白を描いた「遠い空の下の故郷」の朗読など、やはり声を生かすパフォーマンスが多いようである。

新しい朗読に挑戦したい

小生が脚本に関わったタクシードライバー物語「わすれものはありませんか」にも、みきさんは登場している。最愛の息子を亡くし故郷を追われた過去を内に秘め、車椅子生活を余儀なくされる頑固な一人の老女役を演じている。全編、車椅子に座ったままの演技である。劇が終わって観客への挨拶で、車椅子から立ち上がって礼をされた時、本当にどきどきと致しました。

みきさんは「快さんのお芝居は構造がしっかりしていて、年代が同じだからでしょうけど、むつかしいけれどわたしの感覚には合っています」と言う。

みきさんは快さんが月一回開く「昭和を考えるSPレコード雑談会」の常連メンバーでもある。昭和の流行歌と朗読を組み合わせた作品を思い描いている。

腰痛対策のため、週二回三〇分、プールに入っている。水が浮力が体の負荷を和らげて歩きやすい。最後に「現代座がいつまでも続いてほしい。これからもみんなと一緒に参加したいと思っています」と目を輝かしている。(了)



※このシリーズを担当している筆者の武本英之さんは専門紙「東京交通新聞」の編集局長。NPO現代座正会員でもあります。

合唱のある二幕四場

約束の水

12月5日～8日



山中三郎
今村純二



山中啓一
寺崎昌広



山中よし子
木下美智子



山中靖夫
八木浩司



市役所職員ミキ
東 志野香



林業作業士竹田
黒澤義之



日系人ミツコ
矢川千尋

◆廃墟の村で
T市の観光課にミツコと名乗る日系ブラジル人の若い女性「谷山村へ行きたい」と訪ねてくる。戦前に谷山村からブラジルに移住したミツコの祖母が、故郷の村の「約束の水」という湧き水を恋しがりながら息をひきとったという。ミツコはその「約束の水」を一目見たいと言っているのである。だが、谷山村は今はない。T市の山奥の無人の集落となっている。かつて谷山村で生まれたというミキと靖夫がミツコを案内することになる。

◆高齢者と呼ばれて
ミツコたちは谷山地区で山中三郎という老人と出会う。山中三郎は長い間寝たきりの妻チヨを介護していたが、チヨが亡くなると急に無口になったため、周囲からはボケてきたのではないかと心配されている老人である。

◆自分を取り戻したい
三郎は天気の良い日を見計らっては、ひそかに廃墟の谷山地区に戻り、かつて住んだ家を手直しし、小さな畑を耕し、地区のあちこちに集落の特徴やいわれを書いた案内板を立て、昔の記憶を呼び戻そうと努力していた。

三郎はミツコから「約束の水」と呼ばれた泉のことを尋ねられるが、どうしても思い出せない。しかし、見捨てられたこの村を終生恋しがったというミツコの祖母の話聞き、なんとしても探してやらねばと思った。

◆親父を連れ戻せ
時折姿を消す三郎の行方を怪しんで、街の人々は「山中の息子は父親を山の中に放置している」と噂する。息子啓一と妻よし子はなんとかして父親を連れ帰らねばと、林業作業士竹田の協力を受け、谷山地区へ乗り込む。そして力づくで街へ連れ帰ろうとする。三郎は抵抗するうちに足を踏み外して転倒し、「もう終わりだ」とうなだれる。

◆約束の水を求めて
見かねたミツコは「おじいさんとお会いできただけで十分です」とお礼に祖母の形見だという小石を差し出す。それは「約束の水」の水受け場に敷き詰められていた小石の一つであった。

その石を見つめるうちに三郎はみるみる生気を取り戻し、昔の村の様子を生き生きと語り始める。一同は心打たれ、三郎を助けて「約束の水」を探しはじめる。

上演日程

2014年12月

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 5日(金) | 6日(土) | 7日(日) | 8日(月) |
| 19:00 | 14:00 | 14:00 | 14:00 |

大人 3000 円
小中高 1000 円

現代座ホール

各回 80 名の予約制です。TEL:042-381-5165 FAX:042-381-6987 メール:michiko@gendaiza.org

現代座会館 8月～10月 活動日誌

8月4日「現代座レポート59号」発送作業

15日 川崎平右衛門プロジェクト会議

20日「武蔵野の歌が聞こえる」上演サポーター集会

21日「緑町ふれあいサロン」

22～23日 小金井平和盆踊り・踊り指導

25日 川崎平右衛門プロジェクト会議

9月3日「武蔵野の歌が聞こえる」上演サポーター集会

11日～15日「武蔵野の歌が聞こえる」公演

18日「緑町ふれあいサロン」

22日 川崎平右衛門プロジェクト会議

28日「SPレコード雑談会・李香蘭について①」

30日 東志野香のヨガ教室スタート

10月11日「武蔵野の歌が聞こえる」公演チーム会議

15日 川崎平右衛門プロジェクト会議

16日「緑町ふれあいサロン」

26日「SPレコード雑談会・李香蘭について②」

〔現代座ホール〕

7月～9月 「武蔵野の歌が聞こえる」稽古・公演

8月28～30日 劇団「影法師」稽古

9月17～18日 「ながめくらし」稽古

10月3～4日 音楽と朗読「oteyomi」公演

10月10～26日 劇団「希望舞台」稽古

10月27～11月2日 劇団「燐光群」稽古

〔三階小ホール〕

8月11～22日 八峯企画「シアワセの種」稽古

9月16～19日 チーム・クレセント大道員製作

10月10～12日 演劇サークル「夢さしの」公演

〔定期使用 二階サロン〕

毎日曜日 早稲田ラジオスクール(学生支援)

毎月曜日 子どもクラブ・パンピーノ

毎水曜日 熟年パソコンサークル

隔木曜日 ipad 熟年講座

毎火曜日 東志野香のヨガ教室(3F)

お知らせ

合唱のある二幕四場

約束の水

作・演出 木村 快
音楽 岡田京子
美術 出川三男

会場 現代座ホール

| | | | |
|----------|------|-------|-------|
| 2014年12月 | 5(金) | — | 19:00 |
| | 6(土) | 14:00 | — |
| | 7(日) | 14:00 | — |
| | 8(月) | 14:00 | — |

参加費 大人：3000円 小中高：1000円

※各回80名の予約制です。事前にお申し込み下さい。
NPO 現代座 TEL:042-381-5165

遠い空の下の故郷

～ハンセン病療養所に生きて～

佐久仏教会「秋のさわやか講演会」

11月16日(日) 13:30

佐久市新子田 ラポール佐久(長野県)

公演のDVD・さし上げます

会員の皆様に2014年9月公演「武蔵野の歌が聞こえる」のDVDをさし上げております。

過去の作品でも、ご希望の作品をDVDにしますのでお問い合わせください。

現代座会館をご利用ください

◆地下ホール(地下2階吹き抜け)

空間は15メートル×12メートル×天井高5.5メートル。中ホール並みの吊り物、舞台装置、照明を設置できます。通常は客席部に80席を準備していますが、全面をワンフロアにすることもできます。

◆3F小ホール 舞台とグランドピアノ、客席40席。

◆2Fの集会室20～30人。

◆1Fのロビー15～20人。

これらの設備は地域の活動や様々な創造活動に使っていただきたいと思っております。

使用料その他、お気軽にお問い合わせください。

東志野香のYOGA教室



日々の心身の疲れをリフレッシュ♪初心者向けのクラスです。ヨガはストレッチ体操ではありません!ですから、体が硬いかた、よく見かける難しそうなおポーズに不安を持っている方、是非、ご参加下さい。

毎週火曜日 10:15～11:15(60分)

参加費 1000円(1レッスン)

会員の新規入会・継続・寄付ありがとうございます

2014年7月26日～2014年10月22日までの間に入会、継続、寄付をいただいた皆さま。(敬称略・五十音順)

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円

協賛会員 10,000円(1口以上)

郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座